

火中の栗を拾う

旭川市医師会
忠和クリニック

ひしやま ほうへい
菱山 豊平

今年の春、3月、栗山監督率いる「侍JAPAN」は見事、WBCで優勝したことは記憶に新しい。実は栗山監督が住んでいる栗山町に私も平成20年から約4年間、生活した過去がある。

この栗山町には全道で十ある赤十字病院の一つである栗山赤十字病院がある。病院は平成14年より6年間赤字が続き、当時の病院長の辞職後、後任が決まらず、空席のままになっていた。そこで日赤北海道支部より私に病院長就任の要請があった。管理職を経験していない自分にはその役職を全うできるのかの不安と、旭川赤十字病院在籍中に、感染対策、輸血療法、NST等各種委員会の長を経験したりしていたので、なんとか院内の諸課題は乗り切れるのではと淡い期待やら気持ちは交錯していた。当時の旭川赤十字病院の後藤院長も背中を押してくれた。加えて栗山赤十字病院は北大第二外科の関連病院で、私の研修医時代、出張医としてお世話になった病院でもあり、また、祖父が栗山町の隣の三川で医院を開業していたこともあり、これもなにかの縁と思ひ決断し、平成20年10月、赴任することとなった。この異動に関して、同門の先輩、あるいは後輩諸氏から「菱山が栗山に火中の栗を拾いに行った」と揶揄された。

着任後三週目に、ストレスだったのだろうか、タール便の排出を認め、旭川赤十字病院を受診し、出血性胃潰瘍の診断で内視鏡止血術を受けた。濃厚赤血球4パックの輸血を受け退院した。新病棟の改築計画の委員だった私自身が新築された救急病棟のなんと第一号患者だったというおまけが付いた。

日赤の本社に病院管理委員会が設立、栗山赤十字病院は財務状況の悪い全国の赤十字病院6病院の一つとして指定病院に選定され、同委員会より平成21年度から3か年で黒字決算を目標とした「経営健全化3か年計画」を提出することを余儀なくされた。その際、本社からは外部譲渡、施設の閉鎖を含め、機能の縮小、機能転換等の提案があり、その中でわれわれは地域の高齢化に対応した医療の実践のため、二つの一般病棟のうち、一病棟を療養病棟に変換し、一般病棟(60床)、療養病棟(80床)と機能縮小した案を選択し、本社に計画案を提出した。また、小児科および眼科の廃止に加えて、赤十字病院のスケールメリットである人事交流を利用し、道内外の赤十字病院と人事異動を行い、検査科をアウトソーシングし、さらに退職勧奨も含め医師、看護師、

検査科の職員の人員削減を図った。

就任当初、新型インフルエンザの流行があったが栗山町に対策の協力を求めたが反応は鈍かった。そこで「栗山赤十字病院あり方検討会」を立ち上げ、5回にわたり医療行政全般にわたり議論を重ね、少なかった財政支援を医療機器の更新を含め1億数千万円の援助を受けることができた。この結果、就任3年目には以前60%台だった病床稼働率が90%を超えるようになり、単年度の赤字はほぼ解消でき、4年目には確実に黒字転換できることが判明した。

就任当初の病院長職としての仕事の他に、外科の外来担当、手術の助手などがあった。院内事情が把握できるようになり、健診センター業務の担当、地域の集団検診への参加など仕事範囲を努めて増やしていった。一方、内科医の減少に伴い、医局員からの要望もあり、内科外来の診察、療養病棟や夜間の当直も担当せざるを得なくなった。

実は40歳の前半から心房細動を自覚するようになっており、当初は不整脈を自覚する頻度は稀であったが、59歳のとき、脳血栓で意識喪失し、旭川赤十字病院脳外科に救急搬送された既往がある。幸い、発症から時間が短く、後遺症がなく、復帰することができた。しかし、栗山に来てからはアルコールが入ると不整脈を誘発する頻度が増えてきていた。一応当初の目標を克服できたことで、健康を理由に、70歳の定年を待たず、平成23年9月、退職した。

旭川に戻り、心房細動に対し、アブレーション手術を受け、現在は心房細動から解放されている。

栗山赤十字病院を辞して10年になる。多くの病院が経営に悩んでいる中で栗山赤十字病院は黒字を維持してきているとのこと。昭和55年に建設された病院の建物は在職時から老朽化、狭隘化が進み、施設設備の刷新が喫緊の課題であったが、その後も幾度も栗山町と議論を重ね、紆余曲折を経て完成は2年後の令和7年9月、現在の建物の解体等が終わってのグランドオープンは令和8年7月の予定と聞いている。

栗山町の丘陵地帯の一角には栗山監督が作った「栗の樹ファーム」という野球場があり、グラウンドの片隅には白いベンチが置かれ、これらを見下ろすように栗山監督の住んでいるログハウスがある。この内の一棟には栗山監督が収集した野球グッズがところ狭しと陳列されている。ここに彼の愛弟子である大谷選手のエンジェルスユニフォームがもう飾られているのだろうか？ また、栗山を訪れてみたくなった。そして大谷の今日の活躍は？ と気になりテレビのスイッチを入れる昨今である。